

障害者アート 理解を深めて

「きらぼし★展」実行委

県内の障害者の芸術作品を集めた「きらぼし★アート展」の実行委（岡山障害者文化芸術協会、県、山陽新聞社会事業団などで構成）は、同展で入賞経験がある制作者3人の絵をプリントしたTシャツと布製エコバッグを初めて製作した。協賛企業・団体に配り、障害者アートへの理解を深めるのに役立ててもらう。（高松方子）

Tシャツとエコバッグ（20×36センチ）にそろ原のカラフルな昆虫の絵はTシャツ、極小の家計6種類。幾何学模様のトカゲが目を引くカグラ顔を表現したダイキ（本タニ（本名・神谷浩二）名・岡本大貴）さん（18歳）（49）津山市高尾（同市中区）のペイン画は水彩作品、光井亮太さ

バッグに採用された。文

Tシャツ、エコバッグ初製作

山陽新聞社と県民共済会活協同組合、岡山済生会総合病院が協賛し、計約千点を製作。17日に山陽新聞社（同市北区柳町）で贈呈式があり、3人が各企業・団体の代表者に手渡した。3も目指すという。

字や背景との組み合わせと福扯大の中村俊介教うが担当した。といったデザインは川崎医療福祉大の川崎医療福祉大の中村俊介教うが使つてほしい」と話していた。

自らが制作した絵をプリントしたTシャツとエコバッグを紹介する（左から）光井さん、カグラタニさん、ダイキさん

